〔９番　平山晶邦議員　登壇〕

○９番（平山晶邦議員）　平山晶邦です。通告に従い，一般質問を行います。

来年，常陸太田市は，市施行７０年，新生常陸太田市になって２０年を迎えます。市は，来年度に向けて，その記念行事を開催するべく，キャッチフレーズやシンボルマークの作成や様々な企画を検討しているようであります。未来に向けての常陸太田市の明確なメッセージが伝わる市制施行新生常陸太田市２０年の年になることを強く願っています。

今，日本経済は絶好調を迎えているようです。賃上げの話ができるようになったことはよかったですし，賃上げも賃上げ率３．６％を実現して，総理は，来年も持続的賃上げを実現するべく，関係団体に働きかけをしているようであります。

私は，政府もデフレ脱却からの施策に懸命に取り組んでいると思っています。経済対策を取りまとめ，世界的なインフレの中で国民生活の難局を乗り切り，賃上げと成長の好循環を確実なものにしていっていただきたいと願っています。

世界的には，失業者が少ない日本は大変評価されている国であるし，外国からの投資も多くなっていて，日経平均株価も３万４，０００円を目指している状況です。日本も新たなステージに入ってきているように思います。

私は，常陸太田市も新たなステージに入ったということを今までも議会の場で申し上げてまいりました。私たち市民も自信を持って，これからの常陸太田市をつくっていこうではありませんか。前段，以上のことを申し上げて，一般質問に入ります。

水道，簡易水道事業の今後の事業経営についてお伺いをいたします。

私たちは，毎日あらゆる公共サービスに支えられて生活しています。特に日本においては蛇口をひねれば水が出ますし，毎日バスや電車が走っていますから，これらの日常が当たり前に感じ

ているので，市民の皆さんも，その裏にあるサービスや自治体の取組に目を向けることは，あまり多くはないのではないでしょうか。私たちの生活を支える，私たちの生活になくてはならないものの，公共インフラの最たるものの一つが水道事業です。

先ほどから申し上げておりますように，新生常陸太田市になって２０年でありますが，水道事業は，まだ，水道，簡易水道の水道と，市の中に２つの事業が入っていて，水道事業としては整理がされておりません。

私は，令和２年度の一般質問で，水道事業は一元化を図り，効率化した組織で行っていくべきだという視点から質問を行いました。そのときのご答弁では，１立方当たり給水原価は２９７円で，供給単価は１５５円であり，一般会計から多くの補助金を入れて経営している状況であることや，老朽化が進んでいる施設の維持更新を計画的に進めること，また，異なる料金体制の見直しについても検討する旨のご答弁でありました。

合併して，２０年がたつわけでありますから，改めて申し上げますが，常陸太田市の水道事業は一体化した効率ある事業にしていく必要があると考えます。水道事業の経営体制や太田地区と金砂郷地区は統一された水道料金ですが，まだ水府，里美地区とは水道料金が統一されていない状況ですので，水道料金も整理する状況になっていると考えます。

その中で，持続可能な公共インフラとして，安全，安心な水の供給をしっかりとした経営基盤の上で進めることを望み，以下２点の質問をいたします。

１点目は，今後の中長期的な事業経営の在り方を示す新たな水道ビジョンと，経営戦略での事業経営についてお伺いをいたします。

２点目は，水道料金の見直しの方向性についてお伺いをいたします。

以上で１回目の質問といたします。

○藤田謙二議長　上下水道部長。

〔畠山卓也上下水道部長　登壇〕

○畠山卓也上下水道部長　水道・簡易水道事業について，２点のご質問にお答えいたします。

初めに，１点目の今後の中長期的な事業経営の在り方を示す新たな水道ビジョンと経営戦略での事業経営についてでございますが，議員ご発言にありましたように，水道は市民生活に必要不可欠なライフラインとして,市民の生命と暮らしを守るという重要な役割を担っておりますため,市といたしましても，将来にわたり安定的に事業経営を継続していく必要があるという強い意志を持って事業経営に当たっているところでございます。

水道事業及び簡易水道事業を取り巻く環境は年々厳しさを増しておりますが，市といたしましては，これまで，令和３年度に水道メーターの検針業務を，令和４年度には簡易水道施設の運転管理業務を民間委託するなど，業務の効率化を図ることで５人の人員削減を行い，経費削減にも努めてまいりました。

しかしながら，今後の事業経営の見通しも大変厳しく，人口減少に伴い，水道事業と簡易水道事業を合わせた給水人口は,令和４年度に４万７,３６２人であったものが,１０年後の令和１５年度には３万９,６００人程度まで減少すると見込まれ，それに伴って，令和４年度に９億３,８

６０万円ほどあった水道料金収入も，８億８，６００万円程度まで減少するものと見込んでいるところでございます。

一方，老朽化が進む施設の更新をする必要があり，管路だけでも，令和４年度末で，法定耐用年数の４０年を超えるものが約１４４キロもございますため，それらを更新するためには多額の更新費用がかかる見込みでございます。

さらには，物価高騰により，動力費，委託費などの維持管理費用も上昇傾向にありますことから，現行の水道料金の水準のままでは，施設の維持管理費用や更新費用を賄えず，厳しい事業経営となるものと見込んでいるところでございます。

そのため，市といたしましては，現在，令和６年度から１０年間を計画期間とする新たな水道ビジョンと経営戦略の策定作業を行っており，事業の経営基盤強化のため，県などと連携して，広域化等についても検討しながら，水道事業と簡易水道事業を統合することも検討しており，本年度中には素案を取りまとめたいと考えてございます。

続いて，２点目の水道料金の見直しの方向性についてでございますが，現在の水道料金は，常陸太田地区及び金砂郷地区を給水区域とする水道事業と，水府地区及び里美地区を給水区域とする簡易水道事業では異なる設定となっており，さらに，簡易水道事業においては，水府地区と里美地区で異なる設定となってございます。そのため，公共料金である水道料金については，公正公平であるべきという考えの下，現在，水道事業と簡易水道事業の統合の検討と併せ，水道料金の統一についても検討を進めているところであり，水道料金の見直し案を令和６年度には取りまとめてまいりたいと考えてございます。

繰り返しとなりますが，水道は市民生活に必要なライフラインであり，将来にわたり安定的に事業経営を継続していく必要がございますため，現在抱える課題を先送りすることなく，今後も効率的な事業経営に努めることはもちろんのこと，現在進めている広域化及び事業や水道料金の見直しについての素案を取りまとめ次第，市議会及び市民とも情報共有を図りながら，検討を進めてまいりたいと考えてございます。

○藤田謙二議長　平山議員。

〔９番　平山晶邦議員　質問者席へ〕

○９番（平山晶邦議員）　ご答弁をいただき，ありがとうございました。質問した内容については，理解をいたしました。

今年度中に新たな水道ビジョンと経営戦略を立てるということでございますから，しっかりとしたビジョンをつくっていただきたいと思っております。

水道事業はコスト意識をしっかり持って事業を進めていただきたいと思いますが，水道事業の第一義の使命は，市民に対して，安全安心の水の供給を，市民が負担を感じない価格で行う。そして，持続可能な組織体制で行うことであると思います。どうぞよろしくお願いをいたします。

今回の一般質問では，公共インフラである水道事業の質問をいたしました。私は，市民の価値観が多様化しても，市行政の使命は，市民の生命，財産を守り，市民の安全，安心を担保することだと思います。それゆえ，水道事業ばかりでなく，公共インフラを守り，公共サービスの持続

可能な状況をつくっていくことが，市には求められます。

合併後２０年を迎えても，常陸太田市が抱える整理すべき行政的課題はまだまだ多く残されているように思います。その課題問題にも，新生常陸太田市２０年を節目として，市長を先頭に職員一丸となって取り組んでいただきたいという思いを申し上げて，私の一般質問を終わります。ありがとうございました。